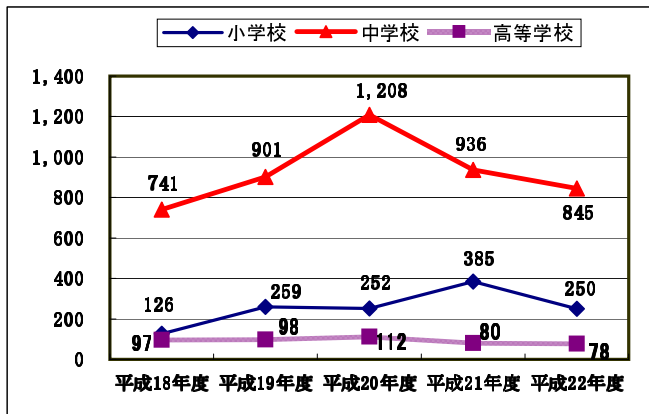


平成22年度 暴力行為の状況

1 暴力行為の発生件数の推移（奈良県の公立学校）

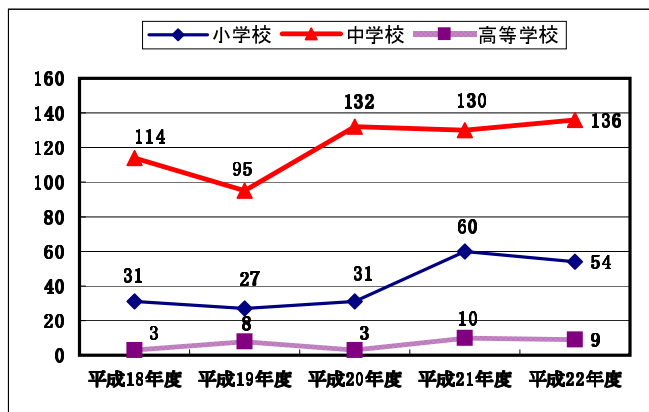
	小学校		中学校		高等学校		合 計	
平成18年度	126		741		97		964	
平成19年度	259		901		98		1258	
平成20年度	252		1208		112		1572	
平成21年度	385		936		80		1401	
平成22年度	250		845		78		1173	
校内外の別	内	外	内	外	内	外	内	外
	231	19	798	47	61	17	1090	83



2 暴力行為4形態の状況（奈良県の公立学校）

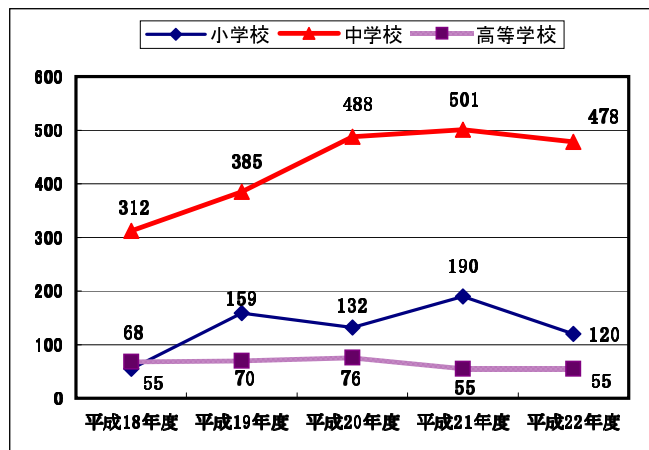
(1) 対教師暴力の発生件数の推移

	小学校		中学校		高等学校		合 計	
平成18年度	31		114		3		148	
平成19年度	27		95		8		130	
平成20年度	31		132		3		166	
平成21年度	60		130		10		200	
平成22年度	54		136		9		199	
校内外の別	内	外	内	外	内	外	内	外
	54	0	136	0	9	0	199	0



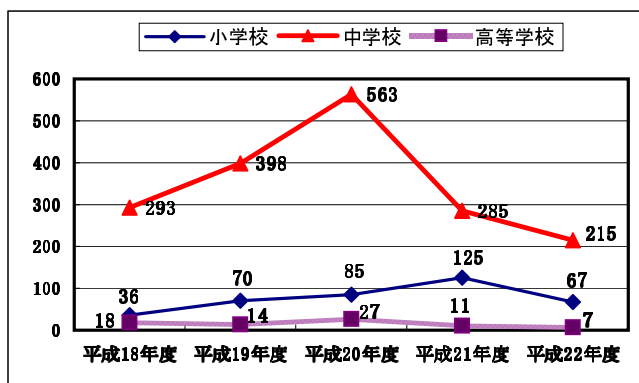
(2) 生徒間暴力の発生件数の推移

	小学校		中学校		高等学校		合 計	
平成18年度	55		312		68		435	
平成19年度	159		385		70		614	
平成20年度	132		488		76		696	
平成21年度	190		501		55		746	
平成22年度	120		478		55		653	
校内外の別	内	外	内	外	内	外	内	外
	106	14	447	31	45	10	598	55



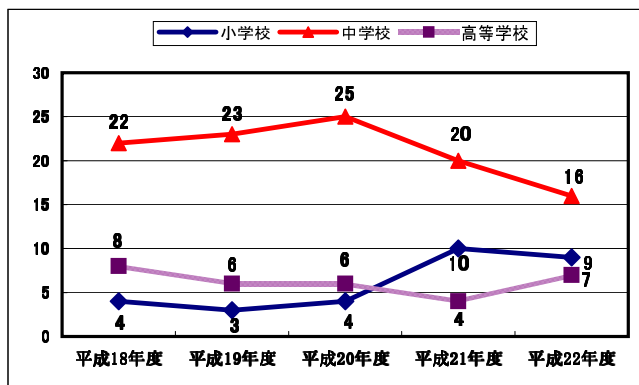
(3) 器物損壊の発生件数の推移

	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	36	293	18	347
平成19年度	70	398	14	482
平成20年度	85	563	27	675
平成21年度	125	285	11	421
平成22年度	67	215	7	289



(4) 対人暴力の発生件数の推移

	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	4	22	8	34
平成19年度	3	23	6	32
平成20年度	4	25	6	35
平成21年度	10	20	4	34
平成22年度	9	16	7	32
校内外の別	内 外	内 外	内 外	内 外
	4 5	0 16	0 7	4 28



3 全国との比較 (国公私立小・中・高等学校合わせた1,000人当たりの発生件数)

	奈良県	全 国
平成18年度	6.2件	3.1件
平成19年度	7.9件	3.7件
平成20年度	10.1件	4.2件
平成21年度	9.2件	4.3件
平成22年度	7.6件	4.4件

※ 平成22年度の公立小・中・高等学校合わせた1,000人あたりの発生件数は、全国が4.61件で奈良県が8.44件でした。

平成22年度 いじめの状況

1 いじめの認知件数（奈良県の公立学校）

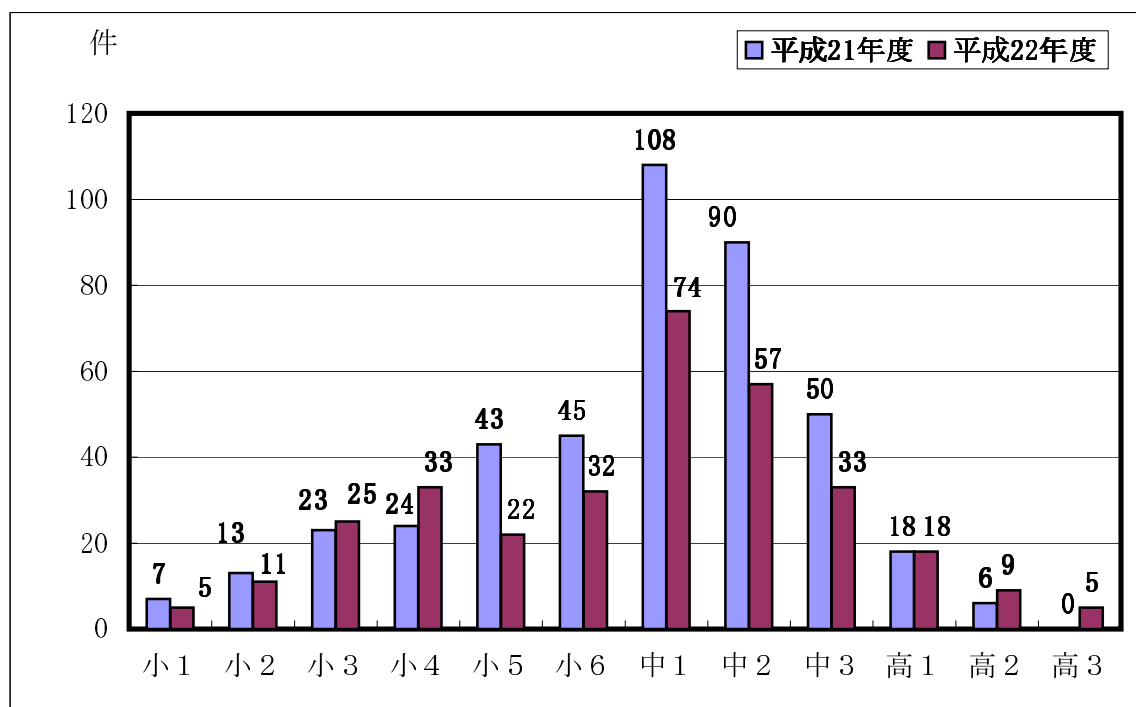
	小学校	中学校	高等学校	合計
平成18年度	472件	447件	118件	1037件
平成19年度	339件	328件	45件	712件
平成20年度	222件	287件	23件	532件
平成21年度	155件	248件	24件	427件
平成22年度	128件	164件	32件	324件

※ 国立・私立・特別支援学校は除く

※ H18年度調査から見直しが行われ、いじめの発生件数（「①自分より弱い者に対して一方的に、②身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、③相手が深刻な苦痛に感じているもの」）から、認知しているすべてのいじめの件数に変更された。

このことからH18年度はいじめの件数が前年に比べて大幅に増加した。この結果を受け、児童生徒から状況を聞く機会を設けるなど個々の状況把握に努め、きめ細かな対応を行った結果、H19年度、H20年度と小・中・高ともいじめの件数が減少した。H21年度、H22年度は小・中ともいじめの件数は減少したが、高校は微増した。

2 学年別いじめの認知件数（奈良県の公立学校）



※ 小学校においては、3・4年生で、高等学校においては、2・3年生で増加している。

3 いじめ発見のきっかけ（公立学校）

(%)

区 分		年度	小学校		中学校		高等学校	
			奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
学校の教職員が発見		H22	32.8	54.7	31.1	47.9	53.1	56.2
		H21	31.0	53.9	46.0	45.5	25.0	48.7
内 訳	学級担任が発見	H22	27.3	22.1	18.9	19.1	3.1	12.3
		H21	27.7	20.8	25.8	19.2	25.0	10.6
	学級担任以外の教員が発見	H22	3.9	1.9	9.1	6.5	3.1	6.5
		H21	1.3	2.0	10.5	7.1	0.0	8.8
	養護教諭が発見	H22	0.0	0.4	1.2	1.1	6.3	1.9
		H21	1.9	0.4	1.2	1.2	0.0	2.1
	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	H22	0.0	0.2	0.6	0.4	0.0	0.2
		H21	0.0	0.2	0.0	0.4	0.0	0.2
	アンケート調査などの学校の取組により発見	H22	1.6	30.1	1.2	20.8	40.6	35.5
		H21	0.0	30.5	8.5	17.6	0.0	27.0
	学校の教職員以外の情報により発見	H22	67.2	45.3	68.9	52.1	46.9	43.8
		H21	69.0	46.1	54.0	54.5	75.0	51.3
内 訳	本人からの訴え	H22	10.2	18.6	26.2	26.8	28.1	26.7
		H21	20.6	18.9	25.0	28.5	50.0	31.3
	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	H22	41.4	18.3	22.0	16.2	3.1	8.8
		H21	29.0	18.8	19.4	16.8	8.3	9.6
	児童生徒（本人を除く）からの情報	H22	8.6	4.4	8.5	5.7	9.4	5.5
		H21	12.3	4.1	3.2	5.6	8.3	7.1
	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	H22	6.3	3.6	10.4	2.9	6.3	1.6
		H21	6.5	3.8	6.0	3.0	0.0	2.1
	地域の住民からの情報	H22	0.0	0.2	1.8	0.3	0.0	0.3
		H21	0.0	0.2	0.0	0.3	8.3	0.2
	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	H22	0.8	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2
		H21	0.6	0.2	0.4	0.3	0.0	0.5
	その他（匿名による投書など）	H22	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.5
		H21	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.4

※ 構成比は、各区分における認知件数に対する割合

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とまらない場合もある。

4 いじめの態様（公立学校）

(%)

区 分		年度	小学校		中学校		高等学校	
			奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる		H22	64.0	68.6	54.9	66.7	62.5	60.5
		H21	56.8	66.2	52.8	64.9	50.0	57.5
仲間はずれ、集団による無視をされる		H22	22.7	23.0	18.3	19.1	6.3	18.0
		H21	20.6	23.9	26.6	19.6	20.8	16.0
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする		H22	25.8	22.2	19.5	18.0	15.6	18.8
		H21	26.5	23.5	18.5	19.3	16.7	21.7
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする		H22	4.7	5.4	10.4	6.8	0.0	8.1
		H21	7.7	6.1	6.0	7.5	4.2	9.4
金品をたかられる		H22	5.7	1.5	1.8	2.3	0.0	4.7
		H21	1.2	2.2	2.0	3.1	4.2	6.2
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする		H22	4.7	7.0	12.8	7.7	3.1	9.5
		H21	11.6	7.7	9.7	8.8	0.0	9.1
いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする		H22	6.3	6.2	12.8	6.5	12.5	9.9
		H21	9.0	6.7	4.8	7.1	8.3	11.4
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる		H22	1.6	0.7	8.5	5.0	12.5	15.2
		H21	1.2	0.9	6.9	5.8	12.5	17.8
その他		H22	7.8	3.4	4.3	3.0	6.3	5.1
		H21	5.8	3.4	4.0	2.7	4.2	7.2

※ 構成比は、各区分における認知件数に対する割合

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とまらない場合もある。

5 いじめの解消状況（公立学校）

(%)

区 分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
いじめが解消しているもの	H22	75.0	81.7	82.9	76.8	90.6	79.3
	H21	75.5	81.7	85.5	77.2	66.7	79.6
一定の解消が図られたが、継続支援中	H22	21.1	14.4	14.6	17.5	9.4	13.0
	H21	17.4	14.3	13.3	17.1	16.7	12.0
解消に向けて取組中	H22	3.1	3.4	2.4	5.0	0.0	4.1
	H21	5.2	3.4	0.4	4.9	8.3	4.9
他校への転学、退学等	H22	0.8	0.5	0.0	0.7	0.0	3.6
	H21	1.9	0.7	0.8	0.9	8.3	3.5

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

6 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組（公立学校）(%)

区 分	小学校		中学校		高等学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
職員会議等を通じていじめ問題について教職員間で共通理解を図った	91.0	92.3	93.5	93.0	73.8	81.4
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ、指導を行った	94.8	91.1	98.1	91.1	83.3	58.1
児童・生徒会活動等を通じて、いじめ問題を考えさせたり、生徒同士の人間関係や仲間作りを促進した	52.8	60.6	72.9	65.7	57.1	32.5
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して相談にあたった	49.5	51.9	69.6	71.4	54.8	54.4
いじめ問題に対応するため、校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った	70.8	70.0	76.6	74.7	69.0	54.9
教育相談の実施について、必要に応じて教育センターなどの専門機関と連携を図るとともに、学校以外の相談窓口の周知や広報の徹底を図った	38.2	31.2	50.5	36.1	35.7	23.4
学校におけるいじめへの対応方針や指導計画等を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努めた	25.0	26.8	28.0	27.0	11.9	15.4
P T Aや地域の関係団体とともに、いじめの問題について協議する機会を設けた	17.9	20.0	28.0	20.0	4.8	7.9
いじめの問題に対し、地域の関係機関と連携協力した対応を図った	17.0	13.4	15.0	14.8	4.8	6.6
その他	1.9	2.2	28.0	2.3	2.4	5.3

※ 構成比は、各校種の学校総数に対する割合《複数選択可》

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

7 いじめの日常的な把握のために、学校が直接児童生徒に行った具体的な方法（公立学校）

(%)

区 分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
アンケート調査の実施	H22	92.5	97.2	99.1	97.9	100.0	84.3
	H21	31.5	69.8	48.6	80.0	26.2	63.7
個別面談の実施	H22	55.7	79.7	96.3	93.2	95.2	85.8
	H21	48.6	73.9	69.2	90.9	95.2	79.3
「個人ノート」や「生活ノート」といったような教職員と児童生徒との間で日常的に行われている日記等	H22	81.1	64.2	59.8	78.1	9.5	9.3
	H21	77.3	61.0	60.7	76.0	7.1	58.5
家庭訪問	H22	81.6	63.0	89.7	72.1	54.8	28.6
	H21	79.6	60.2	87.9	69.1	57.1	58.5
その他	H22	8.0	7.5	14.0	7.3	2.4	6.3
	H21	6.0	7.9	8.4	6.5	0.0	7.8

※ 構成比は、各校種の学校総数に対する割合《複数選択可》

※ 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

8 全国との比較

1 校あたりの認知件数（公立学校）

区 分	小学校		中学校		高等学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成22年度	0.6件	1.7件	1.5件	3.4件	0.8件	1.3件
平成21年度	0.7件	1.6件	2.3件	3.1件	0.6件	1.0件

（全国、奈良県いずれの数値も公立学校の認知件数）

1,000人あたりの認知件数（全国の数値は国・公・私立学校、奈良県の数値は公立学校）

区 分	小学校		中学校		高等学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成22年度	1.7件	5.4件	4.6件	9.5件	1.2件	2.1件
平成21年度	2.0件	4.9件	6.8件	8.9件	0.9件	1.7件

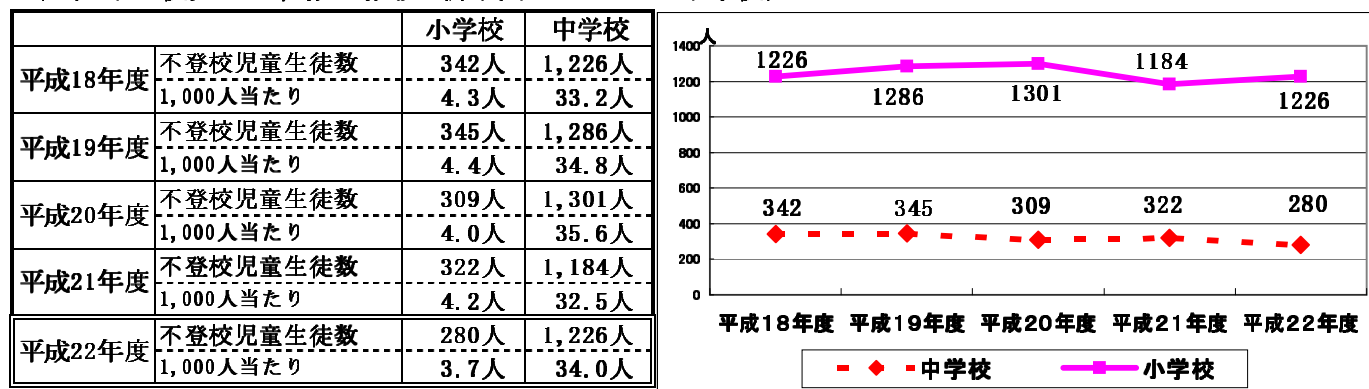
平成22年度 小学校・中学校における不登校児童生徒の状況(年間30日以上)

1 1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移(国公立小・中学校)

	小学校		中学校		小・中学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成18年度	4.3人	3.3人	30.3人	28.6人	13.0人	11.8人
平成19年度	4.4人	3.4人	31.5人	29.1人	13.6人	12.0人
平成20年度	3.9人	3.2人	32.8人	28.9人	13.7人	11.8人
平成21年度	4.1人	3.2人	29.5人	27.7人	13.0人	11.5人
平成22年度	3.6人	3.2人	30.8人	27.4人	13.1人	11.4人

2 公立小学校・中学校における不登校児童生徒の状況等

(1) 不登校児童生徒数の推移(奈良県の公立小・中学校)



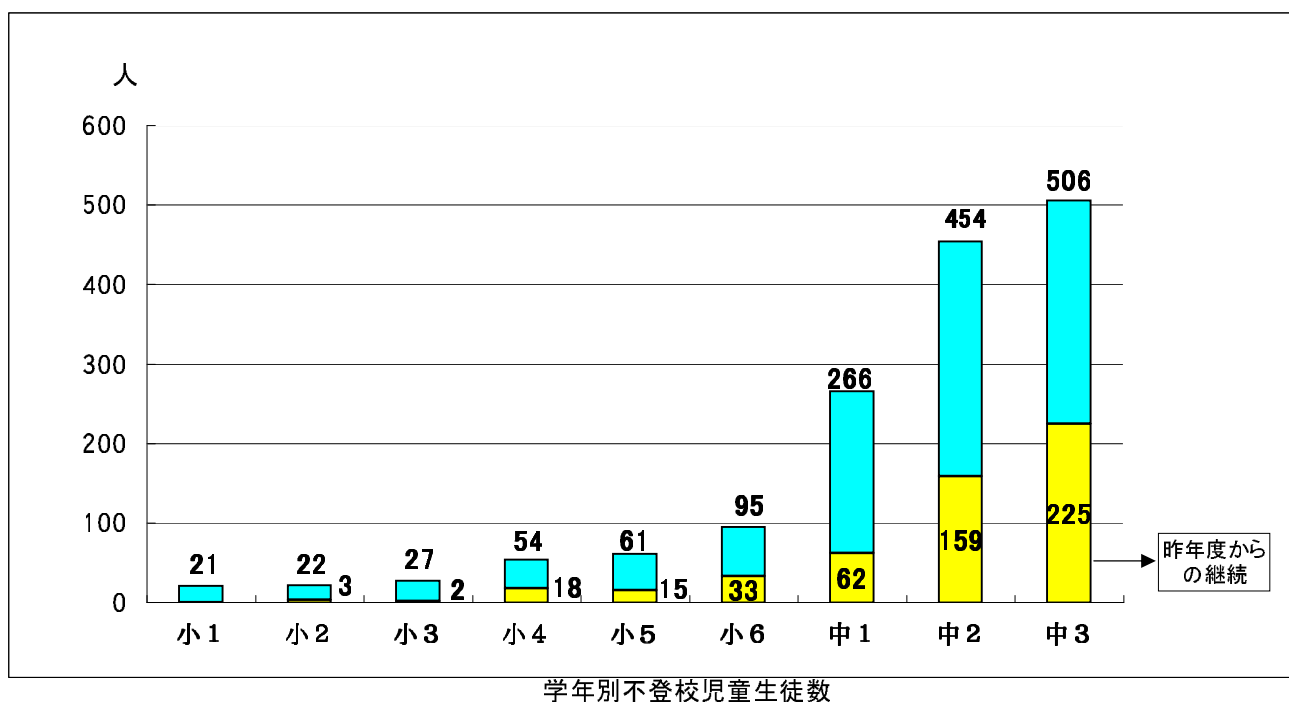
(2) 学年別不登校児童生徒数と前年度の不登校の有無(公立小・中学校)

小学校

区 分			1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	計
奈良県	平成22年度不登校児童数(人)		21	22	27	54	61	95	280
	在籍者数 75,258人	うち21年度から継続 (人)	0	3	2	18	15	33	71
		うち21年度から継続 (%)	0.0%	13.6%	7.4%	33.3%	24.6%	34.7%	27.4%
		比率(%)	7.5%	7.9%	9.6%	19.3%	21.8%	33.9%	100.0%
全 国	平成22年度不登校児童数(人)		1,040	1,673	2,521	3,674	5,516	7,105	21,529
	在籍者数 6,674,858 人	うち21年度から継続 (人)	0	548	872	1,390	2,173	3,228	8,211
		うち21年度から継続 (%)	0.0%	32.8%	34.6%	37.8%	39.4%	45.4%	40.1%
		比率(%)	4.8%	7.8%	11.7%	17.1%	25.6%	33.0%	100.0%

中学校

区 分			1 年 生	2 年 生	3 年 生	計
奈良県	平成22年度不登校生徒数(人)		266	454	506	1,226
	在籍者数 36,039人	うち21年度から継続 (人)	62	159	225	446
		うち21年度から継続 (%)	23.3%	35.0%	44.5%	36.4%
		比率(%)	21.7%	37.0%	41.3%	100.0%
全 国	平成22年度不登校生徒数(人)		20,429	32,448	37,308	90,185
	在籍者数 3,406,844人	うち21年度から継続 (人)	6,168	16,211	23,807	46,186
		うち21年度から継続 (%)	30.2%	50.0%	63.8%	51.2%
		比率(%)	22.7%	36.0%	41.4%	100.0%



(3) 不登校となった直接のきっかけと考えられる状況（奈良県の公立小・中学校）

		小学校(人)	比率	中学校(人)	比率	合計(人)	比率
学校に係る状況	いじめ	9	3.2%	16	1.3%	25	1.7%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	22	7.9%	157	12.8%	179	11.9%
	教職員との関係をめぐる問題	7	2.5%	13	1.1%	20	1.3%
	学業の不振	11	3.9%	84	6.9%	95	6.3%
	進路にかかる不安	0	0.0%	16	1.3%	16	1.1%
	クラブ活動、部活動等への不適応	1	0.4%	27	2.2%	28	1.9%
	学校のきまり等をめぐる問題	2	0.7%	30	2.4%	32	2.1%
	入学、転編入学、進級時の不適応	3	1.1%	25	2.0%	28	1.9%
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	27	9.6%	53	4.3%	80	5.3%
	親子関係をめぐる問題	64	22.9%	113	9.2%	177	11.8%
	家庭内の不和	19	6.8%	42	3.4%	61	4.1%
本人に係る状況	①病気による欠席	27	9.6%	95	7.7%	122	8.1%
	②あそび・非行	3	1.1%	125	10.2%	128	8.5%
	③無気力	52	18.6%	269	21.9%	321	21.3%
	④不安など情緒的混乱	92	32.9%	219	17.9%	311	20.7%
	⑤意図的な拒否	19	6.8%	51	4.2%	70	4.6%
	上記①～⑤に該当しない本人に関わる問題	16	5.7%	35	2.9%	51	3.4%
	その他	17	6.1%	27	2.2%	44	2.9%
不 明		7	2.5%	50	4.1%	57	3.8%
計		398		1,447		1,845	

※ 構成比は、各校種における不登校児童生徒数に対する割合《複数選択可》

※ 比率は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。
そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

(4) 不登校児童生徒への指導結果状況（奈良県の公立小・中学校）

区 分	小学校		中学校	
	人数	構成比	人数	構成比
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	75	26.8%	376	30.7%
指導中の児童生徒	205	73.2%	850	69.3%
うち登校には至らないものの好ましい変化がみられるようになった児童生徒	46	16.4%	260	21.2%
計	280		1,226	

(5) 相談・指導を受けた機関等及び指導要録上「出席扱い」した児童生徒数（奈良県の公立小・中学校）

(人)

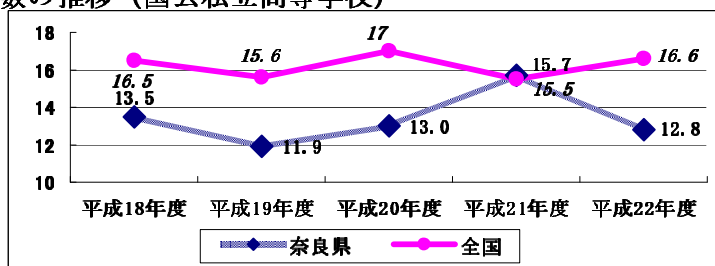
区 分	小学校		中学校		合 計	
	相談・指導を受けた人数	出席扱いした人数	相談・指導を受けた人数	出席扱いした人数	相談・指導を受けた人数	出席扱いした人数
① 適応指導教室	28	23	132	100	160	123
② 教育センター等教育委員会 所轄の機関	36	10	37	15	73	25
③ 児童相談所・福祉事務所	12	3	52	22	64	25
④ 保健所 精神福祉保健センター	1	0	6	1	7	1
⑤ 病院、診療所	15	1	68	0	83	1
⑥ 民間団体、民間施設	11	5	21	10	32	15
⑦ 上記以外の施設	13	1	6	1	19	2
⑧ ①～⑦の機関等での相談・指導を受けた実人数	102	39	305	156	407	195
⑨ 養護教諭による専門的な指導を受けた人数	57		112		169	
⑩ スクールカウンセラー、心の教室相談員等による専門的な相談を受けた	76		260		336	
⑪ ⑨、⑩による相談・指導を受けた実人数	117		347		464	
⑫ ①～⑦、⑨、⑩による相談を受けた人数	179		571		750	

(注) ①～⑦、⑨～⑫は複数回答であり、⑧、⑪は実数。

平成22年度 高等学校における長期欠席実態調査

1 1,000人当たりの不登校生徒数の推移（国公立高等学校）

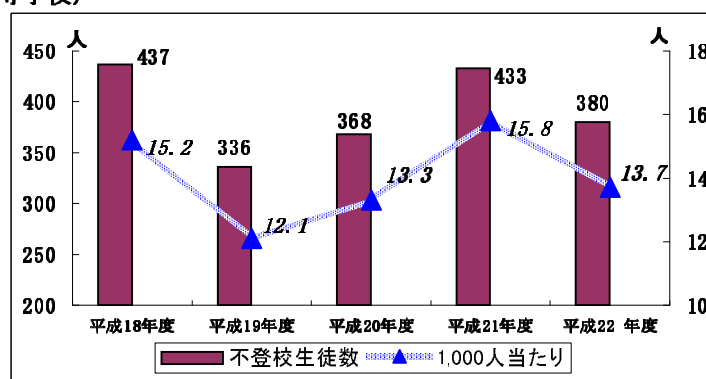
	奈良県	全国
平成18年度	13.5人	16.5人
平成19年度	11.9人	15.6人
平成20年度	13.0人	15.8人
平成21年度	15.7人	15.5人
平成22年度	12.8人	16.6人



2 公立高等学校における不登校生徒の状況等

(1) 不登校生徒数の推移（奈良県の公立高等学校）

年度	不登校生徒数等	高等学校
平成18年度	不登校生徒数 1,000人当たり	437人 15.2人
平成19年度	不登校生徒数 1,000人当たり	336人 12.1人
平成20年度	不登校生徒数 1,000人当たり	368人 13.3人
平成21年度	不登校生徒数 1,000人当たり	433人 15.8人
平成22年度	不登校生徒数 1,000人当たり	380人 13.7人



(2) 理由別長期欠席者数（公立高等学校）

(人)

	在籍者数	理由別長期欠席者数				
		不登校	経済的理由	病気	その他	計
奈良県	27,691	380	8	115	317	820
	比率(%)	46.3%	1.0%	14.0%	38.7%	100.0%
全国	2,228,756	40,955	1,906	8,725	12,622	64,208
	比率(%)	63.8%	3.0%	13.6%	19.7%	100.0%

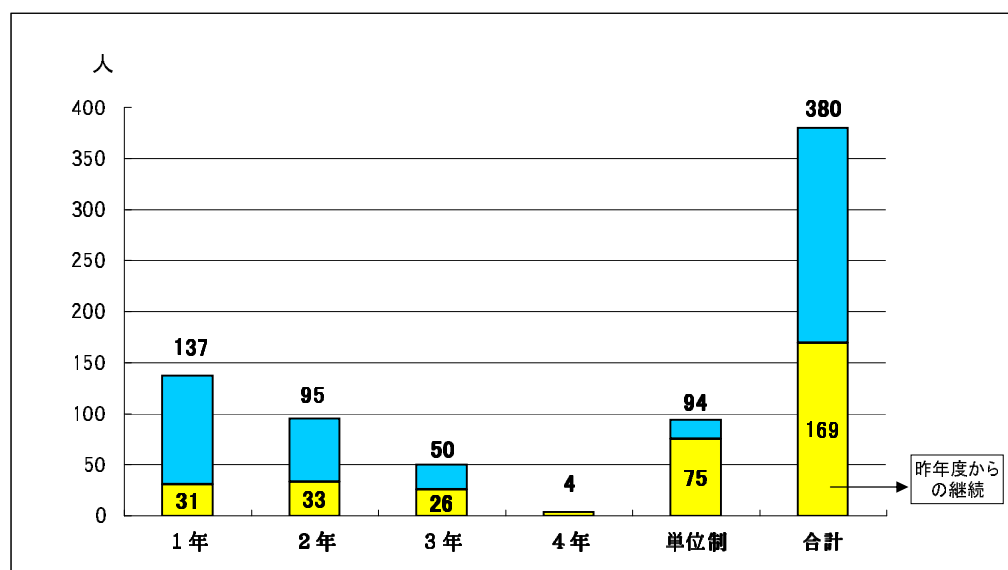
※「その他」の具体例

- ・保護者の教育に関する考え方、無理解・無関心から長期欠席している者
- ・家族の介護、家事手伝いなどの家庭の事情から長期欠席している者
- ・連絡先が不明なまま長期欠席している者
- ・欠席理由が2つ以上有り(例えば「病気」と不登校状態)、主たる理由が特定出来ない者

(3) 学年別不登校生徒数と前年度の不登校の有無（公立高等学校）

(人)

区 分		1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	単位制	計
奈良県	平成22年度不登校生徒数(人)	137	95	50	4	94	380
	在籍者数 27,691人	うち21年度から継続(人)	31	33	26	4	169
		うち21年度から継続(%)	22.6%	34.7%	52.0%	100.0%	44.5%
		比率(%)	36.1%	25.0%	13.2%	1.1%	100.0%
全 国	平成22年度不登校生徒数(人)	11,910	9,186	5,792	713	13,354	40,955
	在籍者数 3,205,433人	うち21年度から継続(人)	3,039	2,849	2,515	476	15,660
		うち21年度から継続(%)	25.5%	31.0%	43.4%	66.8%	38.2%
		比率(%)	29.1%	22.4%	14.1%	1.7%	100.0%



学年別不登校生徒数

(4) 不登校となった直接のきっかけと考えられる状況（奈良県の公立高等学校）

		(人)	
(複数回答可)		生徒数(人)	比率(%)
学校に係る状況	いじめ	1	0.3%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	36	9.5%
	教職員との関係をめぐる問題	4	1.1%
	学業の不振	26	6.8%
	進路にかかる不安	16	4.2%
	クラブ活動、部活動等への不適應	3	0.8%
	学校のきまり等をめぐる問題	9	2.4%
	入学、転編入学、進級時の不適應	20	5.3%
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	16	4.2%
	親子関係をめぐる問題	21	5.5%
	家庭内の不和	4	1.1%
本人に係る状況	①病気による欠席	22	5.8%
	②あそび・非行	21	5.5%
	③無気力	76	20.0%
	④不安など情緒的混乱	50	13.2%
	⑤意図的な拒否	17	4.5%
	上記①～⑤までのいずれにも該当しない、本人に関わる問題	18	4.7%
	その他	14	3.7%
不明		26	6.8%
計		400	

※ 構成比は、不登校生徒数に対する割合《複数選択可》

※ 比率は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までとした。
そのため、構成比で、合計が100とならない場合もある。

(5) 不登校生徒のうち中途退学・原級留置になった生徒数（公立高等学校）

		奈良県	全 国
中途退学	不登校生徒数（A）	380	40,955
	不登校生徒のうち中途退学に至った者（B）	163	12,763
	（B） / （A）（％）	42.9％	31.2％
原級留置	不登校生徒数（A）	380	40,955
	不登校生徒のうち原級留置に至った者（B）	56	4,307
	（B） / （A）（％）	14.7％	10.5％

平成22年度 県立高等学校中途退学者数(全日制)集計表

1 中途退学者数（学年別・事由別）

事 由		学 業 不 振	学校生活・学業不適応					進 路 変 更	問 題 行 動	小 計	病 気 け が	経 済 的 理 由	家 庭 事 情	小 計	合 計
			もともと 高校生活 に熱意が ない	授業に興 味がわか ない	人間関係 がうまく 保てない	学校の雰 囲気があ わない	そ の 他								
学 年	1 年	11	41	19	5	14	15	113	2	220	11	4	7	22	242
	2 年	7	3	9	4	7	11	53	3	97	3	2	4	9	106
	3 年	0	0	1	0	1	0	12	1	15	3	1	1	5	20
事 由 別 中 退 者 数		18	130					178	6	332	17	7	12	36	368
事 由 別 率		4.9%	35.3%					48.4%	1.6%	90.2%	4.6%	1.9%	3.3%	9.8%	100.0%

2 事由別中途退学者数推移表

事由 年度	学業不振	学校生活・学業不適応					進路変更	問題行動	小計	病気・けが	経済的理由	家庭事情	その他	小計	合計	退学率(%)	学年別			生徒総数			
		も高にな	も校熱意	と生活がい	授業がわい	に興がわい											人間関係が保てない	学校の雰囲気がない	その他		1年	2年	3年
平成18	22	17		24		17		63	39	231	8	421	13	4	14	0	31	452	1.72	277	133	42	26,318
		160					61.3%	29.4%	9.3%														
平成19	28	16		18		29		71	36	251	5	454	12	4	12	0	28	482	1.89	318	135	29	25,438
		170					66.0%	28.0%	6.0%														
平成20	20	22		39		11		44	30	233	2	401	10	4	17	0	31	432	1.72	271	129	32	25,130
		146					62.7%	29.9%	7.4%														
平成21	22	41		16		10		17	25	207	1	339	14	2	3	0	19	358	1.44	234	97	27	24,866
		109					65.4%	27.1%	7.5%														
平成22	18	44		29		9		22	26	178	6	332	17	7	12	0	36	368	1.47	242	106	20	25,078
		130					65.8%	28.8%	5.4%														

〔状況〕

1 暴力行為

暴力行為は、対教師暴力、生徒間暴力、器物損壊、対人暴力の4形態で調査している。

平成22年度の本県の公立小・中・高等学校合わせた暴力行為の発生件数は、1,173件（前年度比228件減）であった。また、本県の国公立小・中・高等学校合わせた児童生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、7.6件（前年度比1.6件減）であった。

小学校では250件（前年度比135件減）であった。形態別に見ると、対教師暴力54件（前年度比6件減）、生徒間暴力120件（前年度比70件減）、器物損壊67件（前年度比58件減）対人暴力9件（前年度比1件減）と、全ての項目において減少した。

中学校では、845件（前年度比91件減）であった。形態別に見ると、対教師暴力は136件（前年度比6件増）、生徒間暴力478件（前年度比23件減）、器物損壊215件（前年度比70件減）、対人暴力16件（前年度比4件減）と、対教師暴力がわずかに増加したものの、他の3形態ではいずれも減少した。

高等学校においては、78件（前年度比2件減）であった。形態別に見ると、対教師暴力9件（前年度比1件減）、生徒間暴力55件（前年度と同じ）、器物損壊7件（前年度比4件減）、対人暴力7件（前年度比3件増）と、対人暴力がわずかに増加し、対教師暴力及び器物損壊が減少した。

2 いじめ

本県の公立学校における平成22年度のいじめの認知件数は、小学校で128件（前年度比27件減）、中学校で164件（前年度比84件減）、高等学校で32件（前年度比8件増）となった。

いじめ発見のきっかけについては、小学校では、「当該児童（本人）の保護者からの訴え」が最も多く、次いで「学級担任が発見」となり、中学校では「本人からの訴え」が最も多く、「当該生徒（本人）の保護者からの訴え」は2番目である。高等学校においては、「アンケート調査など学校の取組により発見」が最も多く、次いで「本人からの訴え」となる。

いじめの態様は、小・中・高ともに、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる」が最も多い。2番目は、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」となっている。

いじめが解消しているものは、小学校で75.0%、中学校で82.9%、高等学校では90.6%であった。

いじめの日常的な把握のために、学校が直接児童生徒に行った具体的な方法の中で、「アンケート調査の実施」については、公立の小学校で92.5%（前年度31.5%）、中学校で99.1%（前年度48.6%）、高等学校で100.0%（前年度26.2%）という結果となり、前年度に比べ大幅にアンケート調査の実施率が向上した。

参考 いじめの定義

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

3 小学校・中学校における不登校児童生徒の状況について

－30日以上欠席し、理由が経済的理由、病気等でないもの－

〈1,000人当たりの不登校児童生徒数〉

本県における、平成22年度の国公立小・中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数は、小学校が3.6人（前年度比0.5人減）、中学校が30.8人（前年度比1.3人増）、合わせて13.1人（前年度比0.1増）であった。なお、全国の小・中学校では11.4人となっている。

〈公立小学校・中学校における不登校児童生徒数〉

本県における、平成22年度の公立小・中学校における不登校児童生徒数は、小学校280人（前年度比42人減、13.0%減）、中学校が1,226人（前年度比42人増、3.5%増）であった。

〈不登校児童生徒の前年度の不登校の有無〉

小学校においては高学年になるほど前年度から継続した不登校の児童が増加する。また、中学校においても学年が進むに従って前年度から継続した不登校の生徒が増加する。しかし、全体的には、新たに不登校になる児童生徒の割合が高い結果となっている。

〈不登校の直接のきっかけ〉

小学校では①「不安など情緒的混乱」（32.9%）、②「親子関係をめぐる問題」（22.9%）、③「無気力」（18.6%）の順であり、中学校では、①「無気力」（21.9%）、②「不安などの情緒的混乱」（17.9%）、③「いじめを除く友人関係をめぐる問題」（12.8%）の順となっている。

〈不登校児童生徒への指導結果状況〉

「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」は、小学校においては75人（26.8%）、中学校においては376人（30.7%）となっている。

なお、「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果があつた学校の措置については、小・中学校とも

- ・ 登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。
- ・ 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
などが多い。

〈相談・指導を受けた学校内外の機関等〉

- 不登校児童生徒のうち、学校外の適応指導教室や病院など専門家や機関等において相談・指導を受けた児童生徒は407人（27.0%）であった。

これらの児童生徒のうち、指導要録上出席扱いとなった児童生徒は195人（47.9%）であった。

- 不登校児童生徒が相談・指導等を受けた学校内の専門家等については、養護教諭による専門的な指導を受けた児童生徒は169人、スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた児童生徒は336人であった。

4 高等学校における不登校

本県における、平成22年度の公立高等学校における不登校の生徒数は380人で前年度より53人減少し、学年別では1年生が137人と最も多かった。さらに、不登校生徒の42.9%、163人（平成21年度143人）が中途退学している。

不登校の直接のきっかけについては、①「無気力」(20.0%)、②「不安など情緒的混乱」(13.2%)、③「いじめを除く友人関係をめぐる問題」(9.5%)の順となっている。また、不登校になってしまう生徒は1年生が1番多いという結果となっている。

5 高等学校における中途退学

平成22年度の県立高等学校（全日制課程）における中途退学者は368人で、前年度に比べ10人増加し、中途退学率も0.03ポイント増加し1.47%であった。

中途退学者の学年別割合では、1年生が65.8%、2年生が28.8%、3年生が5.4%であり、1年生では、前年度比に比べ0.7ポイント増加した。

また、事由別では、①進路変更48.4%（前年度57.8%）②学校生活・学業不適応35.3%（前年度30.4%）③学業不振4.9%（前年度6.1%）の順となっている。